

桜蔭俳話会 四月句会 (第三六四回)

平成三十年四月二十二日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

3点 揉むほどに潮の匂ひや新若布 幸

3点 夜桜や秘境の駅のラストラン 明美

3点 寄せる波春の光を乗せて引く 邦子

2点② 罫りの遠き一羽とバスを待つ 才美

2点① 桜蔭降る終の住処と思ひしを ヤエ子

2点 焦点のなき生き方や陽炎へり ヤエ子

2点 アネモネの鉢と並んで警察官 才美

2点 花びらをそおつと踏むや小学生 ヤエ子

2点 初蝶の道案内や文士村 友子

2点 婆二人次の花見を約し合ふ 眞壽

2点 春愁やバッグに過去をびつしりと 才美

2点 をさなごのひそひそばなしまめのはな 才美

2点 アネモネや少女の夢は日々変はる かほる

2点 一枝に触れてみんとて花見舟 友子

1点① アネモネや少年の恋命がけ 守

1点① 八十路なほ行動疾し若緑 かほる

1点① 雪やなぎ風吹くたびに白さます ヤエ子

1点 もう少し待つて見やうかスズメバチ 守

1点 露坐仏は伏目におわす飛花落花 才美

1点 風をよみ空の高みへしじみ蝶 幸

1点 立ち上がる三点支持よ春炬燵 守

1点 辛夷咲く曇り硝子の通りかな かほる

1点 アネモネも知らぬ己は花音痴 眞壽

1点 町内の蕎麦屋閉店春惜しむ かほる

1点 書き替えて見たき自分史夏近し 守

1点 道をしへ「どろぼう橋」を渡りきる 才美

1点 老いてなほ海の恋しや夏近し 守

1点 落花浴び岬巡りや潮溜まり 友子

1点 雨止みて朝の勤行つつじ燃ゆ 守

1点 空模様変はり花色色々に ヤエ子

1点 葱坊主今太陽は青年期 才美

1点 春潮の藍を見下ろす晶子の碑 友子

1点 紫木蓮祈りの街となりにけり 守

1点 遂にきた空き地一面仏の座 直子

1点 アネモネやニンフのごとき畏かける かほる

1点 二人居てそれぞれの私語若葉風 才美

※

八重桜全山すつぼり酔ふてをり 友子

アネモネを求めて開くスマホかな 眞壽

一つの世も刀筆の吏や春霞 かほる

風よ止め牡丹の命果てるまで 友子

摘んで煮て友と味わうつくしんぼ 幸

目借時開きし本はそのままに 直子

白梅の甘き香に酔ひ酒に酔ひ 直子

ここよここよ目印の花夏みかん 守

磯遊びの少年砂の池に魚 友子

ボール蹴る少年ひとり花の昼 才美

今日の雨花の命を縮めけり 邦子

左近山桜花爛漫風渡る 直子

花人の馳走のひとつ桜肉 ヤエ子

孫のこと子のこと語る春の宵 邦子

郁子の花ぶこつな爺の作りし棚 ヤエ子

鯉のぼり老人ホームに若き風 直子

小惑星近づく未来花曇 明美

アネモネ花大人のためのカフェテラス 才美

亡き猫の歩ひてゐたり春の朝 かほる

甲板に猫背の一人春の潮 守

草の名を聞くも忘れし春の山 友子

花衣母の形見をまとひけり 友子

婆の手より受くさくら貝と砂つぶ 友子

間柄問われてうーんアスバラガス 幸

風薫るプーシキン展モネ人気 直子

ふと気付く踏端に開く黄水仙 眞壽

アネモネや真白き画紙の塗り難し ヤエ子

たんぽぽのわたげどこ行く迷い猫 ヤエ子

日溜まりの沈丁花の香漂える 邦子

西郷どんに上野で出会ふ風光る 直子

叶ふ夢叶はざる夢アネモネ咲く 明美

風信子政権の座の揺らぎけり 明美

手を繋ぐ二人に桜散り懸かる 眞壽

アネモネや貸し自転車の戻し場所 守

夜桜の妖気満ちるし水の上 明美

夜桜の妖気満ちるし水の上 明美

夜桜の妖気満ちるし水の上 明美

「赤い靴」の流れしメロデイ花ぐもり ヤエ子
ゴムの木や新芽赤いは強さかな 直子
吹き寄せて流れに浮かぶ花筏 眞壽
K O B A N の看板軽く春のどか かほる
夜桜の闇を透かしてタワー灯る 明美
(欠席投句 古野明美、京林眞壽、松浦かほる)

「事務局からお知らせ」

○第一二九回通信句会作品募

春の季語を用いた三句。締切りは五月十二日(土)。
同封の葉書でお送り下さい。

○五月句会

五月二十六日(土)、山下公園付近で吟行します。
詳細は、同封のお知らせをご覧ください。

○六月句会

六月三十日(土)、旭区民文化センター(サンハ
ート)でおこないます。兼題は、「青葉」です。

○七月句会

七月二十九日(日)旭区民文化センター(サンハ
ート)で行います。